

厚木市制60周年カウントダウン事業 第1回あつぎ子ども議会会議録

厚 木 市

厚木市制60周年カウントダウン事業 第1回あつぎ子ども議会会議録

平成26年8月19日（火）午後1時15分開会

出席議員 29人

1番	相川中学校	宮本伊織
2番	厚木第二小学校	赤羽根遼
3番	戸室小学校	渡部花音
4番	荻野中学校	菅みのり
5番	厚木第二小学校	尾崎舞菜樹
6番	厚木第二小学校	菅原夏樹
7番	南毛利中学校	石黒恵里
8番	南毛利中学校	川原知真
9番	相川中学校	有坂勇希
10番	南毛利中学校	岡本紗弥
11番	南毛利中学校	小坂麻衣
12番	毛利台小学校	小久保里咲
13番	厚木中学校	柴田真那
14番	厚木小学校	猪狩舞
15番	戸室小学校	室田美玲
16番	荻野中学校	ティンカークリスティーンシャロン
17番	厚木第二小学校	福山友莉香
18番	戸室小学校	内村日香
19番	厚木小学校	宮渕萌
20番	相川小学校	宮本杏彩
21番	厚木中学校	三好悠太
22番	厚木中学校	幸田波月
23番	厚木小学校	瀬戸大雅
24番	厚木小学校	藤川瀬名
25番	厚木第二小学校	吉岡聖伶菜
26番	厚木小学校	西山理子
27番	厚木中学校	川島来実
28番	小鮎中学校	丸帆夏
29番	厚木第二小学校	内田榛平

欠席議員 なし

説明のための出席者

市長	小宮	林台	常	良功
副市長	宮鈴	木野		勲司
副市長	筋葉	山	晃神	一保
政策部長	相	原		勝一
市制60周年・東京オリンピック・パラリンピック担当部長	石齊	井藤	淳	良保
総務部長	高	梨橋	正芳	彦朗
文書法制課長	三	山	松	聡一
財務部長	秋	高田	太	夫公
福祉部長	大	澤		郎修
市民健康部長	串	原	栄幹	春明
子ども未来部長	岩	木	教一	志夫
市民協働推進部長	栗	野塚		義聡
危機管理部長	鈴	下	俊祐	治夫
環境農政部長	星	戸野	尚轄	夫広
環境施設担当部長	石	中	三	彦穂
河川みどり部長	森	田		毅行
産業振興部長	瀬	泉	惠國	
まちづくり計画部長	高	村	則	
許可担当部長	田	倉	徳昌	
市街地整備部次長	久	田	茂	
まちづくり推進担当部長	保	本		
道路部長	小	崎		
国県道調整担当部長	小	藤		
会計管理者	朝	利		
消防長	杉	野		
病院事業局長	平			
教育局長	松			
教育委員会教育総務部長	宮			
教育委員会学校教育部長	山			
教育委員会社会教育部長	加			
選挙管理委員会事務局長	甘			
監査事務局長	平			
農業委員会事務局長				

事務局出席者

事務局局長	山	口	美千代
事務局次長	大	貫	秀行
議会総務課長	成	井	美樹
議会総務課副主幹	関	野	聡
議会総務課主査	見	上	苗

速記員出席者

(株)澤速記事務所速記士	大	場	久美子
--------------	---	---	-----

議 事 日 程

- 1 議席の指定
- 2 会議録署名議員の指名
- 3 会期の決定
- 4 一般質問

番号	学校名	子ども議員名	質問要旨
1	相川中学校	宮本伊織	厚木市長とは、どんな仕事をし、どのように市を変えてゆくのですか。
2	厚木第二小学校	赤羽根 遼	厚木市の長所と短所について
3	戸室小学校	渡部花音	厚木市ではどのようなことに一番多くの税金があてられているのか。
4	毛利台小学校	小久保 里咲	厚木市の将来像について
5	荻野中学校	菅 みのり	子育てヘルパーについて
6	厚木第二小学校	尾崎舞菜	市長が特に力を入れていることについて
7	厚木第二小学校	菅原夏樹	足などに障がいがある人にやさしいことについて
8	南毛利中学校	石黒恵里	街灯が点滅していたり、一部に集中的に配置されている。また、オレンジや黄色など少し見づらい色をしている。
9	南毛利中学校	川原知真	市の安全について
10	相川中学校	有坂勇希	相川交流プロジェクトについて
11	戸室小学校	内村日香	大きな地震に備えた電柱の対策について
12	厚木中学校	柴田真那	駅、駅周辺をきれいにしてほしいです。
13	厚木小学校	猪狩 舞	ごみのポイ捨てについて
14	戸室小学校	室田美玲	自然を大切にするために、または、生かすためにどんな工夫をしているか。
15	南毛利中学校	岡本紗弥	もっとたくさんの方が使いやすいバスセンターにはできないのか。
16	南毛利中学校	小坂麻衣	本厚木駅にお花が欲しい。
17	厚木小学校	宮 澁 萌	厚木市のマンション建設について（場所）
18	相川小学校	宮本杏彩	なぜアミューを作ろうとしたのか、また、なぜアミューと言う名前になったのか。
19	厚木中学校	三好悠太	専門店について
20	厚木中学校	幸田波月	厚木市内の施設について
21	厚木小学校	瀬戸大雅	厚木に大きなスポーツの専門店は出ないのですか。

番号	学校名	子ども議員名	質問要旨
22	厚木小学校	藤川瀬名	厚木には、なぜJリーグチームがないのですか。ぜひ作ってください。
23	荻野中学校	ティンカー クリスティーン シャロン	なぜ中学生は部活に行くとき、自転車に乗っては駄目なのか。
24	厚木第二小学校	福山 友莉香	今の厚木市について
25	厚木第二小学校	吉岡 聖伶菜	市内小学生交流の場設置について
26	厚木小学校	西山理子	学校の行事について
27	厚木中学校	川島来実	給食について
28	小鮎中学校	丸 帆 夏	厚木市内全ての小中学校で自校式給食にする予定はありますか。
29	厚木第二小学校	内田 榛平	教室のエアコンについて

本日の付議事件

- 1
- 〈 議事日程に同じ
- 4

○山口美千代事務局長 皆様、こんにちは。厚木市制60周年カウントダウン事業第1回あつぎ子ども議会にご参加をいただきまして、まことにありがとうございます。

開会前に、出席者のご紹介をさせていただきます。

初めに、市の関係者を紹介させていただきます。

子ども議員の皆様から向かいまして左手前列、右から、小林常良厚木市長です。

○小林常良市長 小林です。よろしくお願ひします。

○山口美千代事務局長 お隣が宮台功副市長です。

○宮台 功副市長 宮台です。よろしくお願ひします。

○山口美千代事務局長 そのお隣が鈴木勲副市長です。

○鈴木 勲副市長 鈴木です。こんにちは。

○山口美千代事務局長 右手前列にまいりまして、平井広教育長です。

○平井 広教育長 平井です。よろしくお願ひします。

○山口美千代事務局長 中央が石井芳隆厚木市議会議長です。

○石井芳隆議長 皆さん、よろしくお願ひいたします。

○山口美千代事務局長 両側の2列目以降につきましては市の各部長等となりますが、お手元に配付の資料により紹介とさせていただきますので、よろしくお願ひします。

次に、子ども議員の皆様を紹介いたします。

子ども議員の前列から順に紹介しますので、名前が呼ばれましたら、元気よく返事をしていただき、起立、礼、着席の順でお願いいたします。

相川中学校・宮本伊織議員。

○宮本伊織議員 はい。

○山口美千代事務局長 厚木第二小学校・赤羽根遼議員。

○赤羽根 遼議員 はい。

○山口美千代事務局長 戸室小学校・渡部花

音議員。

○渡部花音議員 はい。

○山口美千代事務局長 荻野中学校・菅みのり議員。

○菅 みのり議員 はい。

○山口美千代事務局長 厚木第二小学校・尾崎舞菜議員。

○尾崎舞菜議員 はい。

○山口美千代事務局長 厚木第二小学校・菅原夏樹議員。

○菅原夏樹議員 はい。

○山口美千代事務局長 南毛利中学校・石黒恵里議員。

○石黒恵里議員 はい。

○山口美千代事務局長 南毛利中学校・川原知真議員。

○川原知真議員 はい。

○山口美千代事務局長 相川中学校・有坂勇希議員。

○有坂勇希議員 はい。

○山口美千代事務局長 南毛利中学校・岡本紗弥議員。

○岡本紗弥議員 はい。

○山口美千代事務局長 南毛利中学校・小坂麻衣議員。

○小坂麻衣議員 はい。

○山口美千代事務局長 毛利台小学校・小久保里咲議員。

○小久保里咲議員 はい。

○山口美千代事務局長 厚木中学校・柴田真那議員。

○柴田真那議員 はい。

○山口美千代事務局長 厚木小学校・猪狩舞議員。

○猪狩 舞議員 はい。

○山口美千代事務局長 戸室小学校・室田美玲議員。

○室田美玲議員 はい。

○山口美千代事務局長 荻野中学校・ティンカークリスティーンシャロン議員。

○ティンカークリスティーンシャロン議員 はい。

○山口美千代事務局長 厚木第二小学校・福

山友莉香議員。

○福山友莉香議員 はい。

○山口美千代事務局長 戸室小学校・内村日香議員。

○内村日香議員 はい。

○山口美千代事務局長 厚木小学校・宮渕萌議員。

○宮渕 萌議員 はい。

○山口美千代事務局長 相川小学校・宮本杏彩議員。

○宮本杏彩議員 はい。

○山口美千代事務局長 厚木中学校・三好悠太議員。

○三好悠太議員 はい。

○山口美千代事務局長 厚木中学校・幸田波月議員。

○幸田波月議員 はい。

○山口美千代事務局長 厚木小学校・瀬戸大雅議員。

○瀬戸大雅議員 はい。

○山口美千代事務局長 厚木小学校・藤川瀬名議員。

○藤川瀬名議員 はい。

○山口美千代事務局長 厚木第二小学校・吉岡聖伶菜議員。

○吉岡聖伶菜議員 はい。

○山口美千代事務局長 厚木小学校・西山理子議員。

○西山理子議員 はい。

○山口美千代事務局長 厚木中学校・川島来実議員。

○川島来実議員 はい。

○山口美千代事務局長 小鮎中学校・丸帆夏議員。

○丸 帆夏議員 はい。

○山口美千代事務局長 厚木第二小学校・内田榛平議員。

○内田榛平議員 はい。

○山口美千代事務局長 それでは、理事者並びに子ども議員の皆様、恐れ入りますがご起立願います。

一同、礼。

ご着席願います。

ここで石井芳隆厚木市議会議長よりご挨拶をいただきます。

○石井芳隆議長 子ども議員の皆さん、こんにちは。本日は、厚木市制60周年カウントダウン事業第1回あつぎ子ども議会に出席をいただきまして、まことにありがとうございます。私は、厚木市議会議長の石井芳隆と申します。

今、私たちがいますこの議場は、厚木市民に選ばれた厚木市議会議員の皆さんが、市民の暮らし、そして大切なことなどを市長さんや部長さんたちにいろいろお話を聞いたり議論をしたり、そして決定していく場所であり、また疑問等も持ちながら、皆さんが意見を出し合いながら、自分たちのまちを自分たちで考えていくことが大切なことであると思えます。

今回の貴重な体験は、これからの人生において必ず役に立つものと信じております。これをきっかけに、皆さんの心の中に、自分たちのふるさとである厚木市のために積極的にかわりを持ち、頑張りたいと思う人があらわれてくれることを期待しております。

厚木市議会の議場という皆さんにはなれない場所での開催のために、緊張しているかもわかりませんが、私も皆さんの質問を楽しみにしておりますので、元気よく、大きな声で質問をしていただきたいと思います。

それでは本日はよろしくお願ひいたします。

○山口美千代事務局長 ありがとうございます。

次に、小林常良厚木市長よりご挨拶をいただきます。

○小林常良市長 (登壇) 皆さん、こんにちは。29人の子ども議員の皆さん、ようこそおいでいただきまして、まことにありがとうございます。

ざいます。今お話をいただきました厚木市長の小林常良と申します。

石井芳隆議長さんから緊張していませんかというお話がありましたけれども、大丈夫ですか。初めて座る席でありますので。

そして、今、議長さんからお話がありましたように、厚木市には1年間に約1100から1200の事業がありますが、それをここの場所でいろいろな話し合いをさせていただき、それにはお金が必要なこともあります、そして関係者のご了解をいただくようなこともあります、そういうことを話し合っ、より仕事として生かしていこう、実際事業をしていこう、そういう話し合いをする場所です。民主主義という言葉はご存じかと思えますけれども、その一番大切な部分がこの場所から厚木市内に発信されている。そういう意味では聖域と申しますか、この場は品格も含めて貴重な話し合いが進むところでもあります。

私はいつもここに立ってお話をさせていただきますけれども、きょうは顔ぶれがいつもと全然違いまして、大変お若い方がいらっしゃるといことで、私どもも精いっぱい努力してお答えさせていただきたいと思っております。

厚木市の将来像はどうなっていくのですかという質問も後ほどあるようでございますが、厚木市の将来像はこういう言葉であらわしております。「元気あふれる創造性豊かな協働・交流都市 あつぎ」。

元気あふれる創造性豊か——創造性というのはつくるということですね。創造力という言葉がありますね。創造、つくり上げていく。ないものから新しいものをつくり上げていく、そういう意味で言っております。その創造をするには心の豊かさが必要だということです。

元気あふれる創造性豊かな協働——協働の協は協力の協という字です。右側に力を3つ書きますね。左側のへんは、力をみんなで足しましょう、力を合わせて——協働の協は協力の協です——。協働の働は人が動くという

字です。働くという字です。汗をかいて、力をみんなで一つにまとめて、いい社会をつくっていきましょう。

そして協働の次に交流という言葉を使っております。交流は、例えばお友達、人との交流、ご近所との交流、全国との交流、そして国際的な交流、こういうものも含めて人と人とのつながりを大切にしていきたいと思います、そういう厚木市をつくっていきましょうということで、「元気あふれる創造性豊かな協働・交流都市 あつぎ」を厚木市の将来像のテーマとして今進めているところであります。

厚木市ではいろいろな仕事をさせていただきますが、ちょっと難しい言葉であつたらごめんなさい、これからの厚木市をどうしていこうというプランを立てます。計画を立てます。それを総合計画と言っておりますけれども、いろいろな意味の範囲の広い計画をしていくということで総合計画と言っております。これを通称名であつぎ元気プランという言い方をしております。ことしはそのあつぎ元気プランをつくる年でありまして、ここに座っている人たちも、それぞれの仕事の中で厚木市の次の元気プランをつくりましよう、ちょうど今その作業が進んでいるということでもあります。

議員の皆様との関係は特に教育関係でありますけれども、後ほどご質問の中で答弁もさせていただきますようかと思っておりますが、厚木市は、子育ての環境、教育の環境日本一を目指していこうという思いで仕事をさせていただいております。中身については後ほど皆さんと議論させていただこうかと思っておりますけれども、こういうことを通して前進していくには、みんなの気持ちがあつたりになりましよう、「みんなでつくろう元気なあつぎ」こういうスローガンを持って進めているところであります。

ようこそ議員の皆様、おいでいただきました。きょうは議員の皆様と私どもの距離をできるだけ縮めていきたいと思っております。

先日テレビを見ておりましたら、若田光一さんという方は皆さんご存じだと思います。宇宙飛行士の船長さん、リーダーとして宇宙

た。

僕は新しい学校生活がスタートしましたが、中学校では、おかしと思うことや間違っていると思うことがたくさんあります。そのことをいろいろな方向から見て判断し、変えていきたいです。市長さんも市をどんどん進化させるために頑張ってください。よろしくをお願いします。

○2番 赤羽根 遼議員（登壇）厚木第二小学校6年・赤羽根遼です。

厚木市の長所と短所についてお聞きします。

僕は、かながわフードバトルが毎年行われていることや、中学生までの医療費がただなことが厚木市の自慢できるところだと思っています。

そこで、市長さんに質問です。厚木市の自慢できる場所は何ですか。また、少し反省しなきゃいけないところがありますか。

○3番 渡部花音議員（登壇）戸室小学校の渡部花音です。よろしくをお願いします。

私は税金のことについて聞きたいと思います。

税金は、国民の義務として国民が支払っています。厚木市でも同じように市民が税金を支払っています。国では税金の約6割が子育て支援に充てられているそうです。私たちが勉強できたり、病院で薬をもらえたりするのも税金のおかげです。

質問します。厚木市ではどのようなことに一番多くの税金が充てられているのですか。理由も教えてください。

○12番 小久保里咲議員（登壇）毛利台小学校の小久保里咲です。よろしくをお願いします。

私は厚木で生まれ、11歳になりますが、お祭りなどの行事がとても多く、自然豊かな厚木のまちが大好きです。私たちにとっては全然気にしませんが、よく考えてみると、駅周辺には、多くのスーパー、食べ物屋、本屋などがあり、買い物も便利です。また、西のほうには大山がそびえ、七沢などの温泉、相模川でのアユ釣りはとても有名です。ことしは

高速道路が開通し、多くの人に厚木のよさをたくさん知ってもらい、遊びに来てもらいたいと思っています。

質問します。厚木市では、厚木に遊びに来てもらうために、そして住んでもらうために、今後どのようなことをしていくのですか。

○石井芳隆議長 市長。

○小林常良市長（登壇）相川中学校・宮本伊織議員から、厚木市長とは、どんな仕事をし、どのように市を変えて行くのかとのご質問でございますが、まず私の仕事は、厚木市をどんなまちにしていくのかを思い描き、それを計画にして進めていくことです。そのために、先ほどもちょっとお話をさせていただきましたけれども、総合計画という最も重要なまちづくりの計画をつくり、皆さんから納めていただいた税金を、厚木市が素敵なまちになるように、どのように使ったらいいのかを決めていきます。

仕事を進めるに当たっては、市民の皆様からより多くのご意見を伺い、その上で、市民の皆様と力を合わせてまちづくりを進めることを何よりも大切にしております。

次に、どのように市を変えてゆくのかわたしのことですが、私のまちづくりのキャッチフレーズは「みんなで作ろう元気なあつぎ」です。皆さんの思いや力を集めながらさまざまなことにチャレンジし、厚木市を全国に自慢できるまちにしたいと思っています。

宮本伊織議員が言われたように、私も意識を変えることは非常に重要である反面、大変難しいことと思っています。その意識を市民の皆様と共有し、協力し合いながら、計画を進めていくことが大事だと思っています。

厚木市にはいろいろなお店、公園、そして山や川など豊かな自然があります。皆様には、さまざまなよいところを知ってもらい、厚木市をもっと好きになってもらいたいと思っています。

私の大きな目標の1つに子育て・教育環境日本一というものがあります。未来の厚木を盛り上げていく皆さんが元気に成長していけ

るよう応援をしてみたいと思いますので、皆さんには、さまざまなことを学び、経験してもらいたいと思います。そして一緒に元気な厚木をつくっていきましょう。

次に、厚木第二小学校・赤羽根遼議員から、厚木市の長所と短所についてのご質問ですが、赤羽根遼議員には、厚木市のすごくよいところに注目していただき、ありがとうございました。かながわフードバトルinあつぎは、県内のさまざまな食文化を集め、食をキーワードにしたまちづくりや経済の活性化につなげています。

また、中学生までの医療費の無料化につきましても、皆さんが安心して健康な学校生活を送れるよう、ほかの市と比べても自慢できるもので、子育て環境日本一を目指している厚木市の優先的な取り組みです。

このほかにも、先日、2日、3日に開催いたしましたあつぎ鮎まつりは、厚木市の最大のイベントで、ことしは70万人の皆様が来場されました。特に1万発の花火を打ち上げる大花火大会は有名です。

また、厚木市は、市民の皆様と協力し合っ
てまちづくりを進めていることなどが評価され、全国812都市の中で経営革新度日本一というランキングをいただきました。

そして世界的な基準のもとで、安心安全なまちづくりへの取り組みが、WHO、世界保健機関から認められ、セーフコミュニティの認証をいただいたことや、清水小学校では、より安全な教育環境づくりを目指している学校として、インターナショナルセーフスクールの国際認証をWHOから受けたことも自慢できることです。

さて、学校のことで気になっていることをお話ししたいと思います。最近は毎日のように猛暑が続いていますが、この暑さの中でも皆さんが快適に勉強できるように、小学校の教室に早くエアコンを設置していきたいと思うことです。全ての中学校には昨年のうちに設置が済みましたが、小学校はことしから3年間をかけて全校に設置できるよう取り組むことをお約束いたしたいと思います。

また、通学路をより安全に整備することや、学校内のトイレを改修することなど、皆さんが勉強やクラブ活動をしやすい環境をつくることも大切と考えていますので、皆さんの安心安全な学校環境をつくるため、これからも全力で頑張っていきます。

次に、戸室小学校・渡部花音議員から、厚木市ではどのようなことに一番多くの税金が充てられているのですか、理由も教えてくださいとのご質問でございますが、平成26年度の予算において、市税——税金ですね——の収入は429億4700万円であり、厚木市の全体収入の約60%を占めています。市税の使い道につきまして最も多いのは福祉・子育てに要する費用であり、高齢者や障害者に対する介護や医療などのサービスの提供、生活に困っている家庭への援助及び中学生までの医療費を無料にする費用などで、予算全体の約40%になっています。そのほかに道路や公園、河川の整備及び小・中学校のための費用などにも多くの税を充てています。

また、福祉・子育てに多くの税を充てている理由ですが、少子高齢化が急速に進んでいる社会状況にあること、厚木市が市民を対象に実施した市民満足度調査において、福祉・子育て分野の充実が重要であるとの意見が多いこと、そして、私が市長に就任する際に市民の皆様とお約束した子育て・教育環境日本一を目指すことなどにより、重点的に取り組んでいるところであります。

今後におきましても、市民の皆様や企業の方々から納めていただいた市税を、市民お一人お一人が明るく幸せに生活できるよう大切に使っていきます。こうしたことから、渡部花音議員を初めあつぎ子ども議員の皆さんが税について今まで以上に関心を持っていただくことを願っています。

次に、毛利台小学校・小久保里咲議員から、厚木市の将来像についてのご質問ですが、厚木市は、大山や相模川など豊かな自然があり、東京都や横浜市などから1時間程度で来ることができる、交通の便にも恵まれた都市です。小久保里咲議員が言われたよう

に、6月28日には圏央道という待望の高速道路が開通し、東名高速道路、中央自動車道、関越自動車道がつながったことにより、群馬県などの北関東や長野県などの中部地方からのアクセスも抜群によくなりましたので、多くの方々に厚木市を訪れていただけるよう、厚木市の持つ魅力をたくさん発信していきたいと考えています。

そして、昨年、皆様のおかげで、厚木市マスコットキャラクターのあゆコロちゃんが全国で第6位になりました。大勢の方々にあゆコロちゃんに会いに来ていただき、厚木市の豊かな自然環境や飯山温泉郷・七沢温泉郷、駅前のアミューあつぎなど、多くの魅力をわかりやすくアピールしていきたいと考えています。

そしてもう1つ、小久保里咲議員が言われた厚木市に住んでもらうことも非常に大切なことと思います。今、厚木市では、市民の皆様様の命と健康を守る新たな市立病院を建設中で、ことし12月には第I期の工事が完成する予定です。今までにも増して高度な医療や集中治療を受けられるようになります。

また、3年ほど前に東日本大震災がありました。厚木市では、突然の災害に備えて、食糧や飲み水の確保、すぐに救助できる体制など、皆さんが安心して安全に生活することができるよう、災害対策の強化にも取り組んでいます。

そして、子育てや教育の分野では、日本一の実環境整備を目指し、中学生までの子ども医療費助成や2人目以降のお子様への紙おむつ支給、教育面では、小学校3年生までの少人数学級の実施や英語教育を推進するための外国語指導助手の配置など、さまざまな独自のサービスを行っています。こうした政策を着実に推進し、厚木に住んでみたい、また、住んでよかったと思える魅力あるまちづくりを目指し、市民の皆様と力を合わせて一生懸命取り組んでいきますので、小久保里咲議員にもご協力をお願いいたします。

○石井芳隆議長 以上で第1グループの質問を終わります。

次に、第2グループの質問に移ります。

荻野中学校・菅みのり議員。

厚木第二小学校・尾崎舞菜議員。

厚木第二小学校・菅原夏樹議員。

○4番 菅みのり議員（登壇）荻野中学校の菅みのりです。よろしくお願いします。

子育てヘルパーについて質問させていただきます。

私の妹が生まれたとき、大変そうな母が助かると言っていて、今でもすれ違おうと声をかけ、仲よくしてくださっている子育てヘルパーの方々。そのヘルパー制度をなくし、利用期間が短く、経済的負担がふえ、利用時間が少ないほどとタイムサポーターを始めたのはなぜですか。子供がたくさんいる家庭が困ることをなぜ考えてもらえなかったのですか。教えてください。

○5番 尾崎舞菜議員（登壇）厚木第二小学校の尾崎舞菜です。よろしくお願いします。

私が質問したいと思ったきっかけは、ニュースで保育所や幼稚園の待機児童の数がふえていると知って気になったからです。現在、東京などでは、待機児童数はふえていると聞いています。また、小学校の児童クラブに入りたくても入れない人もいると聞いたことがあります。子供を預けて安心して働きたいのに働けない人が大勢いるのは、社会にとっても、その人たちにとっても大変なことだと思います。

そこで、厚木市の待機児童は何人ぐらいいるのか。また、保育所や幼稚園、児童クラブはふやしているのか。児童クラブの先生や保育士は募集するぐらい少ないのか。教えてください。

○6番 菅原夏樹議員（登壇）厚木第二小学校の菅原夏樹です。よろしくお願いします。

僕は4年生のときに車椅子体験をしました。少しの段差でも上れなかったり、坂のときに体が不安定になったりして、危ないと思いました。たった10メートルでも大変だなと思いました。そして、障害がある人は厚木で

安全に過ごせるのかという疑問があります。

そこで質問します。厚木市のバリアフリー化は進んでいますか。ふやしたほうがいいと思います。また、障害がある人に対しての優しい見方や協力の仕方を学校でも教育したほうがいいと思いますが、機会はふえますか。この件について教えてください。

○石井芳隆議長 市長。

○小林常良市長（登壇） 荻野中学校・菅みのり議員から、子育てヘルパー制度をなくし、ほっとタイムサポーター制度を始めたのはなぜかとのご質問でございしますが、子育てヘルパー事業では、お子様が3人以上で1歳前の赤ちゃんがいる家庭にのみヘルパーを派遣し、家事や育児の支援を行ってまいりました。ほっとタイムサポーター事業は、より多くの家庭を支援するため、手助けの必要な妊婦さんや子育てが特に大変な生後3カ月までの赤ちゃんがいる全ての家庭を対象を広げ、お父さんやお母さんの子育て相談や家事の手伝いができるようにしました。

また、生後3カ月から小学校6年生までのお子様がいる家庭に対しては、ファミリーサポートセンターによる子育て支援を行っています。

ほっとタイムサポーターの利用料金につきましては、交通費と支援に係る費用を利用者の方にお支払いいただきますが、その3分の1に当たる金額を助成し、できるだけ多くの家庭で負担が少なくサービスを利用していただけよう努めています。

厚木市では、子育て環境日本一を目指し、さまざまな取り組みを進めています。菅みのり議員からいただきました子育て家庭の貴重なご意見を参考に、これからも子育て支援のさらなる充実に努めてまいります。

次に、厚木第二小学校・尾崎舞菜議員から、厚木市の待機児童は何人いるか、また、保育所や幼稚園はふやしているか、児童クラブの先生や保育士は募集するくらい少ないのかのご質問でございしますが、保育所の待機児童につきましては、ことしの4月1日現在

28人となっています。昨年4月1日現在と比べますと10人の増加となっています。

厚木市では、このような状況を踏まえ、来年4月1日から民間認可保育所1園をふやすことや、新たにスタートする予定の子ども・子育て支援新制度による保育所での受け入れができる定員をふやすなどのさまざまな取り組みにより、待機児童をなくします。

児童クラブの待機児童につきましては、ことしの5月1日現在、緑ヶ丘小学校、戸室小学校や厚木第二小学校など、107人となっています。本年度は、緑ヶ丘小学校、戸室小学校に各1教室ずつふやし、夏休みから児童の皆さんの受け入れを開始いたしました。今後につきましても、児童クラブの待機児童をなくすため、教育委員会や小学校と十分に話し合いながら対策を進めていきます。

児童クラブの先生や保育士については、必要な人材の確保はできていますが、定年や家庭の事情等で退職される方がいられますので、必要に応じて広報等により募集しながら採用を行っています。

厚木市では、子育て環境日本一を目指してさまざまな取り組みを進めています。尾崎舞菜議員が心配してくれた保育所や幼稚園、児童クラブがこれからもきちんと運営できるよう努力していきます。

次に、厚木第二小学校・菅原夏樹議員から、障害がある人は厚木で安全に過ごせるのかのご質問でございしますが、障害のある人には、目が不自由なため盲導犬や誘導してくれる人が必要な方、耳が不自由なため手話が必要となる方、足が不自由で車椅子を必要とする方など、障害の内容が異なることで、私たちがお手伝いできることにも違いがあります。また、障害のある方が安全に過ごすことができるように、道路、公園などの段差の解消や乗りおりしやすいノンステップバスの事業者へ助成するほか、目の不自由な方が外出するときに安心して歩けるよう、点字ブロックや音の出る信号機の設置など、さまざまな視点からバリアフリー化に努めています。

これからも市民の皆様が厚木市に住んでよ

かった、住み続けたいと思うまちにするため、障害のある人もない人も地域で安心して安全に暮らせるように、菅原夏樹議員を初めあつぎ子ども議員の皆さん、そして市民の皆様と一緒に考えていきたいと思います。

以上でございます。教育に関する質問につきましては、教育長から答弁をさせていただきます。

○石井芳隆議長 教育長。

○平井 広教育長（登壇）厚木第二小学校・菅原夏樹議員から、障害がある人に対しての見方や態度などに教育はあるのかとのご質問でございますが、障害のある子とない子を分けて考えるのではなく、みんなが認め合い、ともに学び合うことが大切であると考えています。皆さんには、友達が困っているときにお互い助け合える温かい心と、そして思いやりのある行動を身につけた人になってほしいと願っています。

全ての小学校では、総合的な学習の時間に車椅子の体験をしたり、点字等について学んだりしています。また、小学校、中学校では、学校生活のいろいろな場面で差別をしてはいけないと学んでいます。菅原夏樹議員が言われるように、優しい見方や協力の仕方を学校で学ぶ機会をふやせるように工夫していきたいと思っています。

○石井芳隆議長 以上で第2グループの質問を終わります。

次に、第3グループの質問に移ります。

南毛利中学校・石黒恵里議員。

南毛利中学校・川原知真議員。

相川中学校・有坂勇希議員。

戸室小学校・内村日香議員。

○7番 石黒恵里議員（登壇）南毛利中学校の石黒恵里です。よろしくお願ひします。

質問したい事項は街灯についてです。

点滅していたり、一部に集中して置かれていたり、オレンジ色など少し見づらい色をしている街灯があります。私は夜遅くに習い事から帰ってくるので、街灯があるととても助かります。ですが、点滅していて少し通りづらいところがあります。また、黄色など周り

が見にくい色の街灯は通るのが怖いと感じたり、虫が集まっているので女の子たちは回り道をして帰っている子もいるようです。回り道をしたことにより事故や事件にもつながるおそれがあると思います。ぜひ街灯を統一した色で配置してください。

点滅している件について、私から1つ提案があります。街灯に太陽光発電でたまったエネルギーを使用するのはいかがでしょうか。

今の提案を踏まえて質問します。街灯の色と点滅している件について教えてください。

○8番 川原知真議員（登壇）南毛利中学校の川原知真です。よろしくお願ひします。

僕は、中学校の保健の授業で、中学生の自転車の交通事故件数が多いと勉強しました。ことしの6月にも自転車の交通事故が発生したこともあり、市内での自転車の事故の件数や件数の増減について知りたいと思いました。

質問します。中学生の自転車の事故の件数はどのように変化していますか。また、事故防止のためにどのような取り組みをしていますか。教えてください。

○9番 有坂勇希議員（登壇）相川中学校1年の有坂勇希です。よろしくお願ひします。

僕は、相川小学校の6年生のときに相川交流プロジェクトに参加しました。これは東日本大震災で被害に遭った宮城県石巻市相川地区を応援する団体だそうです。相川運動公園仮設住宅で窓を拭いたり、花壇の整備をしたり、厚木相川産の梨を配ったりしました。仮設住宅の人からは、遠くからありがとうねと言われて、僕はうれしかったです。小学生の僕にもできることがあると思いました。今でも多くの人が仮設住宅で不自由な生活をしているので、これからも自分のできる支援をしていこうと思います。

質問します。こういった支援ボランティアについて、市長はどうお考えなのか教えてください。

○18番 内村日香議員（登壇）戸室小学校6年の内村日香です。よろしくお願ひしま

す。

私は、ふだん道を歩いていると、短い間隔でたくさんの電柱が立っているのが目に入ります。厚木市は近い将来、大きな地震が来る可能性が高いと聞きました。大きな地震が来れば、電柱が倒れてきてけがをしたり、その倒れた電柱が緊急車両の通行を妨げたり、電線が切れるなどしてとても危ないと感じます。

質問します。厚木市はそのことに対して何か対策をしているのでしょうか。教えてください。

○石井芳隆議長 市長。

○小林常良市長 （登壇）南毛利中学校・石黒恵里議員から、街灯が点滅していたり、一部に集中的に配置されている。また、街灯を統一した色で配置してほしい、太陽光発電でたまったエネルギーを街灯に使ってほしいとのご質問ですが、街灯には防犯灯と街路灯があります。防犯灯は白色の明かりで、歩行者の皆様が夜間に安心して安全に歩けるように、地域の皆様からのご要望に基づき、主に電柱に設置しています。一方、街路灯は、オレンジ色や黄色の明かりで、夜間に車を運転する人が道路面の状況がよくわかるように設置しています。照明はそれぞれの目的や基準に応じて設置していることから、統一した色で配置することは少し困難と考えていますので、ご理解をお願いします。

また、太陽光発電により防犯灯などを設置することにつきましては、とても素晴らしい考えだと思いますので、導入につきましては今後研究を進めてまいります。

厚木市では、平成26年度から、消費電力やCO₂が削減でき、虫が集まりにくいLED灯による防犯灯の設置を進めています。夜遅くに歩くときには、事故や事件に巻き込まれないためにも、防犯灯や街路灯がある明るい歩道を歩くようにお願いします。

なお、消えていたり点滅している防犯灯や街路灯を見つけたら、恐縮ですが市役所に電話をください。速やかに交換し、市民の皆様のお安心安全を図っていきますので、石黒

恵里議員のご協力をお願いします。

次に、南毛利中学校・川原知真議員から、自転車にかかわる市の安全についてのご質問でございますが、厚木市で発生した自転車全体の交通事故件数は9年連続で減少していますが、平成25年では278件の事故が発生しています。また、中学生による自転車の交通事故件数は、平成24年が6件、平成25年が13件と増加しています。厚木市では、平成25年4月に厚木市自転車安全利用促進条例を制定し、幼児、児童の乗車用ヘルメットの着用の推進を初め、自転車利用者に交通ルールやマナーの向上を呼びかけるため、自転車安全教室や自転車マナーアップキャンペーンなどの取り組みを積極的に行っています。

特に、交通安全こども自転車大会を通して、交通事故防止につながる取り組みを市内小学校で実施しています。昨年は、交通安全こども自転車神奈川県大会で清水小学校が優勝、緑ヶ丘小学校が第2位というすばらしい成績をおさめています。こうした取り組みを初めさまざまな対策を実施して、自転車の安全利用の促進と交通事故防止に努めています。

川原知真議員も、自転車を利用する場合は交通ルールとマナーを守っていただき、安全に利用していただきますようお願いするとともに、交通事故がない安心安全なまちづくりにぜひご協力をお願いいたします。

次に、相川中学校・有坂勇希議員から、東日本大震災にかかわる相川交流プロジェクトについてのご質問でございますが、東日本大震災の被災地に向けた支援ボランティアの活動はとても大切なことだと思います。厚木市におきましては、地震発生の当日、いち早く消防隊を派遣し、現地での救助活動に当たるとともに、3日後には義援金の募集活動を開始しました。また、市民ボランティアの皆様と一緒に、岩手県大船渡市において、側溝の泥出し作業や仮設住宅の片づけ作業などの支援ボランティアの活動を3回に分けて行いました。

平成23年6月には、必要な物資を支援する

ため、東日本大震災支援基金を設置し、総額で約3400万円が市民の皆様から寄せられ、私が市民の皆様を代表して、宮城県石巻市と岩手県釜石市、大船渡市へ、その時々に必要な物資をお届けさせていただきました。被災地を訪れるたびに、復興に向けて懸命に努力をしている多くの人々の前向きな姿に強く心を打たれました。

いまだ復興には多くの時間が必要とされています。私たちに求められているのは、大震災とその被災地のことを忘れてはならないこと、そして、これからも被災地の復興に必要な支援を続けていくことです。

私たちにとって、災害時に、お互い助け合う気持ちを持つこととボランティア活動などの行動をとることは大変大事なことでありますので、有坂勇希議員もプロジェクトでの交流を大事にいただき、今後も被災地を応援して下さるようお願いいたします。

次に、戸室小学校・内村日香議員から、大きな地震が来れば、電柱が倒れてとても危ないと思います。市ではそのことをどのように考えていますか、また、どのように対処すればよいのかを考えていますかとのご質問でございますが、電柱は、私たちの暮らしに必要な電気や通信を提供してくれる一方で、大きな地震の際には倒れて道路を塞いでしまうなどとても危険な一面もあります。そこで、電柱の持ち主である電力会社や通信会社は、日ごろから異常がないかどうかの点検を実施しているほか、倒れないように安全対策を行っています。厚木市におきましても、地震に対するさまざまな取り組みを行い、災害に強いまちづくりを進めています。

なお、内村日香議員が大きな地震の揺れを感じたときは、身を低くし、体を守り、揺れがおさまったら周りをよく確認し、電柱が倒れているような危険なところは避け、広場など安全な場所に避難してください。また、家族の安全を確認するためにも、事前に集まる場所を話し合っておくことが大事であると思えます。

○石井芳隆議長 以上で第3グループの質問

を終わります。

ただいまの第1グループから第3グループの質問に対する答弁について、子ども議員から再質問はございますか。菅みのり議員。

○4番 菅みのり議員 子育てヘルパーの件でお話を聞かせていただきましたが、再質問させてください。

ヘルパー制度と比べ、ほっとタイムサポーターのほうが利用制限が少なく、多くの方々が利用できるというのは、たくさんの方が使うことができ、とても便利になった点だと感じました。多くの方々が利用するという点で利用時間が短いというのはしょうがないと思いました。しかし、経済的負担はどうなのでしょう。市長さんがほっとタイムサポーターの料金は市が3分の1を助成していると言っていました。ヘルパー制度のときはもっと助成が多かったと思います。

私は、厚木市にたくさんの方が訪れ、楽しんでもらえるように、アミューあつぎをつくったり、日本一長い滑り台をつくるなどといった取り組みをするのはとてもよいことだと思います。ですが、たくさんの方が訪れて厚木に新しく暮らしてもらうことよりも、今、厚木に住んでいる一人でも多くの方がずっと厚木に住んでいたいと思えるような、外側からのすばらしさだけではなく、住んでいる人が本当に住みよい市にすることのほうが大事なことだと思います。

多くの費用をかけて新しく建物や施設を建てるよりも、子育てなどに対する助成の費用をふやしたほうがよいと思うのですが、どうでしょうか。教えてください。

○小林常良市長 菅議員、ありがとうございました。今、市の中に住んでいる人たちをもう少し大事にしたほうがいいのではないかとのお話だと思います。それで、いろいろなものをつくったり、進めているわけです。これも市民の方々に使っていただく、特に今つくっている中では、自然体験を学んでいただくということで、(仮称)健康こども森の整備を進めたりしております。

ここに住んでいる市民の皆さん、そして外

からおいでになる皆さんも含めて内容の充実を図ること、環境をよくすることが大事だと思っておりますので、物事を総体的に大きい意味で考えて、それがよりよい厚木の社会をつくっていくことにつながっていくのだと思います。

先ほど、具体的なヘルパーの関係で、3分の1の補助、そしてその前はもっと助成金が多かったのではないかとこともあります。それには、いろいろな事業にはいろいろな補助がついたり、つかなかったりというのがありますので、ヘルパー関係についても総体的に見てより大勢の人たちがプラスになるような、そんな考え方を持っていてこれからもやっというように思っておりますので、菅議員のお話はしっかり受けとめさせていただきながら、よりよい地域福祉社会をつくっていくための努力をさらに進めていこうと思っております。

○石井芳隆議長 川原知真議員。

○8番 川原知真議員 中学生の自転車の事故件数で、平成24年は6件、平成25年は13件と2倍以上増加している理由について、何か原因はわかっていますか。教えてください。

○小林常良市長 自転車事故の増加について、原因は何かというお話ですが、基本的には、まず1点言えることは、自転車の利用者がふえてきているということが言えると思います。それによって事故につながる部分があるということです。そして自転車については、新たな法律、道路交通法の自転車への規制も強くなってきているわけですが、自転車に乗る人のマナー、そして自転車は時によっては凶器と化すという意識が、自転車の利用がふえている状況の中で、マナーも含めて交通ルールを守る等々の部分がまだ不十分なことによって、事故が増加傾向にあることにつながっていると思います。

それをただ見ているわけにはいかないわけでありまして、そういう意味で、警察の方々、交通安全指導員、交通安全協会の方々、各学校に出向いたりして、自転車の正しい乗り方をマナーとして身につけていただくよ

う、高校生、中学生、それから小学生を含めて、こういう方々に安全な自転車の乗り方について普及を促進することによって、目指す事故ゼロにつなげていこうという活動をさらにやっということによって事故を減らしていくということでもあります。

自転車に限らず、交通事故全体の数は、厚木警察署管内も減少しております。しかし、交通事故の件数と負傷者の数は減ってきているのですが、残念なことに、交通事故で亡くなる方が昨年よりもふえてきているというのが一番の悩みであります。自転車に限らず、車も含めて、交通事故を防いでいく、撲滅をしていく活動を常に関係者としているわけではありますが、現実はまだなかなかそのようにしていない中で、努力や工夫、この活動をさらに推進することによって、事故のない社会へつなげていきたいというのが私の思いであります。

○石井芳隆議長 ここで10分間休憩いたします。

午後2時25分 休憩

午後2時35分 開議

○石井芳隆議長 再開いたします。

第4グループの質問に移ります。

厚木中学校・柴田真那議員。

厚木小学校・猪狩舞議員。

戸室小学校・室田美玲議員。

○13番 柴田真那議員 (登壇) 厚木中学校の柴田真那です。よろしくお願ひします。

最近、ミロードイーストがオープンしました。新しく、きれいで、つい寄っていきたくなります。駅前には、冬のイルミネーションなど美しく飾られているときもありますが、ふだんの駅周辺をきれいと言うのは少し抵抗があります。

以前、ボランティアに参加し、花植えをしました。植えている最中も、数日たってからも、きれいだねと言ってくださる方がいて、うれしかったです。ごみ拾いに参加したときは、きれいになっていくのがうれしい反面、こんなにごみが落ちていたんだと悲しい気持

ちにもなりました。市外の人たちが厚木市と聞くと、ああ、あのきれいなまちねと言うような、私たちが胸を張って自慢できるような美しいまちになるようにしてほしいです。

質問します。駅周辺をきれいにすることについてどのように取り組んでいきますか。教えてください。

○14番 猪狩 舞議員（登壇）厚木小学校の猪狩舞です。よろしくお願ひします。

私は、よく身の周りでごみをポイ捨てる人を見かけます。ポイ捨てるをした人への罰則は強化されていく中だと思ひますが、絶えないものだと思ひます。また、道徳の時間、漂流ごみの行方というものを学びました。浜辺にふえているごみは、海流に乗ってやってくる海外のごみが多くあるというものです。プラスチックのかけらを餌と間違えて飲み込んでしまい、胃を詰まらせ命を落としてしまったひなもいるそうです。ほかにもいろいろな話がありますが、自然に大きな影響を与えています。

ポイ捨てるをしない、させないことはもちろんですが、ごみ拾ひのボランティア活動など、私たちが協力できることはありますか。そして、厚木市ではポイ捨てるを減らすためにどのような取り組みをしていますか。

質問します。ごみのポイ捨てるの件について教えてください。

○15番 室田美玲議員（登壇）戸室小学校の室田美玲です。よろしくお願ひします。

私は、厚木市の自然のことについて聞きます。

私はソフトボールを習っているのですが、そのソフトボールの練習をする場所が山の中にあります。その山の中にはさまざまな野生の生き物がいます。おもしろい鳴き方をする鳥や、私は猿を見たこともあります。あと七沢のほうでは熊も出たと聞きました。私はそういった自然が好きなので質問したいと思ひました。

改めて質問します。厚木市では、自然を大切にするために、または生かすためにどんな工夫をしていますか。

○石井芳隆議長 市長。

○小林常良市長（登壇）厚木中学校・柴田真那議員から、最近ミロードイーストがオープンして、そこだけきれいなので、逆に汚れているところが目立っていると思ひます。まち全体をきれいにしようという心がけてほしいとのご質問ですが、花をたくさん駅前で植えてきれいにしましょうと。大変すばらしい、優しい気持ちがあらわれていると思ひます。

厚木市では、市民一人一人にとって住みよいまちとなるよう、市民の皆様と協働してさまざまな取り組みを行っています。柴田真那議員もボランティアとして参加された道路の草花の植えつけや清掃、除草などもその1つです。また、本厚木駅前や愛甲石田駅周辺では、月に1度、ポイ捨てるの防止と歩きタバコ禁止の呼びかけを行っています。あつぎ鮎まつり花火大会の翌日には、早朝の清掃活動などに多くの市民の皆様に参加していただきました。たしか1500人の方々にこの清掃に参加をいただきました。まちや川をきれいにしようとして取り組んでいます。

これからも厚木市みんなで守る美しい環境のまちづくり条例や良好な景色や眺めを次世代に引き継いでいくための厚木市景観条例で、市民の皆様が誇りを感じられるきれいなまちづくりを進めていきます。

次に、厚木小学校・猪狩舞議員から、ごみのポイ捨てるについてのご質問でございますが、何より一番大切なことは、子供から大人まで全ての人にごみのポイ捨てるはいけないことだと自覚していただくことだと思ひています。このため厚木市では、毎月駅前で、地域から選ばれている環境保全指導員の方や市民ボランティアの方と一緒にごみのポイ捨てる禁止の呼びかけをしています。また、地域の皆様が美化清掃を行うときに、道路や公園などから出たごみの収集などを行っています。今後も、お住まいの地域で美化清掃をされる際には、猪狩舞議員を初め市民の皆様のご協力をお願いします。

次に、戸室小学校・室田美玲議員から、厚木市では、自然を大切にするために、または

生かすためにどんな工夫をしていますかとのご質問でございますが、厚木市には、相模川や大山、丹沢などの豊かな自然があり、私たちの暮らしに潤いを与えています。私たちの暮らしにはたくさんの生き物がかかわっており、私たちはさまざまな恵みを受けています。これらの豊かなつながりを生物多様性といいます。こうした自然を守り、継続的に利用していくことは、私たちだけでなく将来の世代のためにも必要です。

厚木市では、平成25年に、これらのすばらしい自然を将来に引き継いでいくための計画として、生物多様性あつぎ戦略をつくるとともに、山とまちとの中間に位置する農地などの地域を守り活用していくため、厚木市里地里山保全等促進条例をつくり、市と市民の皆様が一緒になって豊かな自然を将来につないでいく取り組みを進めています。具体的には、里山の使われなくなった田んぼを地域の活動団体や市民ボランティアの協力により修復、再生する取り組みや、森を元気にするための取り組みなどを行っています。今後も、室田美玲議員を初め市民の皆様と一緒に、厚木の自然環境を守り育てていきたいと思えます。

○石井芳隆議長 以上で第4グループの質問を終わります。

次に、第5グループの質問に移ります。

南毛利中学校・岡本紗弥議員。

南毛利中学校・小坂麻衣議員。

厚木小学校・宮渕萌議員。

相川小学校・宮本杏彩議員。

○10番 岡本紗弥議員（登壇）南毛利中学校の岡本紗弥です。よろしくお願いいたします。

今のバスセンターは全体的に暗いと思います。昼間でもトイレ周辺は薄暗く、利用するのをちゅうちょしてしまいます。高齢な人や体の不自由な人のためにも、表示や看板の文字を大きくし、もっと植物や季節の花などを植え、バスの待ち時間を目で楽しめるようにしたいと思います。街灯もバスセンター周辺にもっとふやし、明るくすれば、犯罪も少なくなるのではないのでしょうか。

質問します。もっとたくさんの人が使いやすい明るいバスセンターにはできないのかということについて教えてください。

○11番 小坂麻衣議員（登壇）南毛利中学校の小坂麻衣です。よろしくお願いいたします。

私からの質問は、本厚木駅に花が欲しいということですか。

今の本厚木駅には一定の色しかなく、寂しい感じがするので、少しの量でもいいと思うので、色鮮やかなカーネーション、パンジー、マーガレットなど季節に合ったお花を、改札口、または標識のあたりのスペースが空いていると思いますが、そこに花壇をつくるのは難しいと思うので、植木鉢などのお花を欲しいと思っています。

質問します。本厚木駅にお花が欲しいということについて、実現できるか教えてください。

○19番 宮渕 萌議員（登壇）厚木小学校の宮渕萌です。よろしくお願いいたします。

厚木市にはたくさんの小学校があります。しかし、児童数はそれぞれ違います。これらと同じにするために、マンションを建てる場所を考えてほしいと思います。なぜなら、1クラスにたくさんの児童がいるのはとてもよいことですが、先生が目が届きにくくなるからです。どの学校の児童数もなるべく同じになるようにマンションを建てればよいと思いました。

質問します。厚木市の小学校の児童数をなるべく同じにする方法があれば教えてください。

○20番 宮本杏彩議員（登壇）相川小学校の宮本杏彩です。よろしくお願いいたします。

私は、なぜアミューをつくらうとしたのかと、なぜアミューという名前になったのかを質問します。なぜかという、アミューという施設にいろいろな期待を持っているからです。

私には夢があります。美容師になりたいと思っています。これからアミューのような施設でいろいろな勉強をしたり、人と交流し、おしゃれなどを学べる施設がもっとふえたら

いいなと思います。

あと、私はお買い物によく行きます。ですが、私の兄弟はあと3人いて、お母さんはとても大変そうです。お買い物がとても楽しめる施設がもっとふえたらいいなと思います。

質問します。なぜアミューをつくろうとしたのか、なぜアミューという名前になったのか教えてください。

○石井芳隆議長 市長。

○小林常良市長 (登壇) 南毛利中学校・岡本紗弥議員から、もっとたくさんの人が使いやすいバスセンターにできないのかとのご質問ですが、現在のバスセンターは、昭和59年に厚木市が建設し、約30年が経過しています。その間、利用者の方々の通行の安全性や利用しやすい施設となるよう、何度か整備を行ってきました。今後も、交通安全、福祉、防犯、環境面など幅広い視点から、施設の整備や適正な維持管理を行い、安心安全で使いやすいバスセンターになるように、バス事業者とも連携を図り、岡本紗弥議員の優しい気持ちを参考にさせていただき、皆様から愛されるバスセンターを目指していきます。

次に、南毛利中学校・小坂麻衣議員から、本厚木駅にお花が欲しいとのご質問でございますが、本厚木駅は1日約14万3000人が利用している厚木市の表玄関であります。まちの玄関でもある本厚木駅にきれいな花を飾ることで、毎日駅を利用する会社員や学生さん、また、厚木市を訪れた方々の目を楽しませ、心を癒やし、元気な気持ちにしてくれると思います。大変よいアイデアだと思います。

一方、花は生き物ですから、毎日きちんと手入れをして育ててあげることが必要となります。本厚木駅周辺の道路や公園の花壇では、ボランティアの皆様による花を育てる取り組みが既に行われていますので、本厚木駅連絡所のえきちよこや、新しくできましたあゆコロちゃん広場など、本厚木駅構内でも同じような取り組みができるよう、市民の皆様や小田急電鉄と協力しながら検討していきたいと思います。そのときは小坂麻衣議員にもご協力をお願いします。

次に、厚木小学校・宮渕萌議員から、厚木市にはたくさん的小学校がありますが、児童数がそれぞれ違います。これをなるべく同じにするために、マンションを建てる場所を考えてほしいとのご質問でございますけれども、市民の皆様が気持ちよく快適に暮らせるように、住宅を建てることのできる場所、工場を建てることのできる場所、農業をする場所など、土地の使い道は法律で決められています。厚木市はとても広いまちですが、マンションを建てることのできる場所は、本厚木駅周辺や幾つかの地域に限られています。また、地域によって子供たちの多いところや少ないところがあり、その数は毎年少しずつ変わっています。

宮渕萌議員の質問のように、児童数はなるべく同じになったほうがいいと思いますが、マンションを建てる場所を調整して厚木市の小学校の児童数をどこの学校でも同じくらいにするのはなかなか難しいことです。児童数を同じにするためには、隣り合った学校を一緒にしたり、1つの学校に通う地域の大きさを見直したりするという方法がありますが、今、厚木市では、いろいろな角度から見直しを進めているところです。小学校の児童数は多い学校も少ない学校もありますが、それぞれのよいところを生かし、みんなで楽しく勉強できる学校をつくっていきましょう。

次に、相川小学校・宮本杏彩議員から、なぜアミューをつくろうとしたのですか、なぜアミューという名前になったのですかとのご質問ですが、平成20年に厚木パルコが閉店し、鉄板による仮囲いをされた状態が長い期間続き、多くの市民の方々から、中心市街地のにぎわいを取り戻してほしいとの強い要望がたくさんありました。そのため厚木市は、厚木パルコがあったビルを買い、建物の中を直して、アミューあつぎとしてことし4月26日にオープンしました。

アミューの名前ですけれども、市民の皆様が厚木市の広報やホームページで呼びかけ、応募があった284の名前の中から市民の投票で一番に選ばれたのがアミューであります。

アミューのAは集まるとか遊び、もちろん厚木のAであります。2番目のMは未来のMです。YUは夢。アミューはそれらを組み合わせた言葉であります。多くの皆さんに学び、遊び、買い物を楽しんでいただけるよう、未来へ向かって人と人とが交流をし、さまざまな夢を広げられる施設となるようにしていきます。

また、アミューあつぎでは、あゆコロちゃんグッズを初め厚木の名産品を多数販売しています。あゆコロちゃんは、厚木の魅力をPRするシティセールス大使として日々大活躍をしています。宮本杏彩議員を初めあつぎ子ども議員の皆様も、あゆコロちゃんの応援をよろしくお願いいたします。

なお、宮本杏彩議員におかれましては、アミューあつぎにおいて人との交流を通じおしゃれのセンスを磨いて、素敵な美容師さんになっていただきたいと思っております。

○石井芳隆議長 以上で第5グループの質問を終わります。

次に、第6グループの質問に移ります。

厚木中学校・三好悠太議員。

厚木中学校・幸田波月議員。

厚木小学校・瀬戸大雅議員。

厚木小学校・藤川瀬名議員。

○21番 三好悠太議員 (登壇) 厚木中学校3年の三好悠太です。よろしくお願いいたします。

僕があつぎ子ども議会に出させていただく質問は専門店についてです。

厚木市には、アミューやイオンなど複合施設に専門店はありますが、種類が少なく、選択の幅が限られてきます。特にCDショップが駅周辺には少なく、駅郊外まで足を運んでいると聞きました。また、スポーツ専門店では、下荻野にあるDEPOか平塚のスポーツ専門店に行くなど、足を運ぶように思えます。最近なくなってしまったサーティーワンアイスクリーム店など、食に関する専門店も少なくなっているため、もう少しふやすことで、暮らしがもう少し便利になると思いました。

質問します。駅周辺に専門店をふやすことができないか、教えてください。

○22番 幸田波月議員 (登壇) 厚木中学校の幸田波月です。

私は、友達と遊ぶとき、厚木市内の施設では物足りないと思うことがあります。少し遠くまで行って大きなショッピングモールなどまで遊びに行くことがあるからです。厚木市内にそのような施設があったら、ほかの市から来る人がふえたり、市内の人もたくさん来ます。厚木市がより盛り上がると思います。そしてたくさんのお店が入れば多くの年齢の人が利用できます。そして厚木市の経済発展にもつながるのではないのでしょうか。

質問します。厚木市内の施設について教えてください。

○23番 瀬戸大雅議員 (登壇) 厚木小学校の瀬戸大雅です。よろしくお願いいたします。

僕は今バスケットをしているのですが、厚木には大きなスポーツ店がないと思いました。あったとしてもミロードなどに少しあるくらいで、バスケットの用品がありません。僕が膝にけがをしたときにサポーターが必要でしたが、厚木にはなく、海老名に行かなければなりません。近くにあればすぐに買いに行けると思いました。

そこで質問します。厚木に大きなスポーツの専門店はできないのですか。また、そのようなものを建てる予定はないのですか。これらのことについて教えてください。

○24番 藤川瀬名議員 (登壇) 厚木小学校の藤川瀬名です。よろしくお願いいたします。

僕はBJというチームでサッカーをしています。BJ以外にも厚木には強いチームがたくさんあって、サッカーの上手な友達は、厚木市内のチームではなく、ベルマーレやマリノスといったクラブチームでもサッカーをしています。もちろん厚木市にも選抜チームはありますが、将来的には厚木を離れてサッカーをしていると思います。

厚木にもクラブチームがあれば、厚木の上手な人たちは地元のクラブチームに入って活躍できるし、そうしたら厚木のPRにもつな

がると思います。クラブチームがある駅をおりと旗やポスターが張ってあり、まちが丸丸となっている印象を受けます。本厚木はロマンスカーもとまるし、高速道路のインターもあり、人が集まりやすく、何より厚木に住むみんなが元気になり、さらに活気のあるまちになると考えます。

厚木にもJリーグチームをつくることでメリットはたくさんあると思います。ぜひ厚木市を挙げてチームをつくりませんか。ご意見をお聞かせください。

○石井芳隆議長 市長。

○小林常良市長（登壇）厚木中学校・三好悠太議員から、スポーツの専門店、音楽、絵などの専門店をもう少しふやすことはできませんかとのご質問でございますが、厚木市では、商業の活性化と振興を図ることを目的に、商店会や新たに新店舗を出す店舗に対し補助金による支援を行い、まちのにぎわい創出に努めているところです。

専門店の出店に当たっては、ライフスタイルの変化によって、市民の皆様が親しむスポーツや音楽などは多様化しており、市場経済における売り手と買い手のバランスが大変重要となります。こうした中で、さらにスポーツ専門店等をふやすための環境づくりの1つとして、三好悠太議員を初めより多くの市民の皆様がスポーツや音楽活動などへの関心を高め、親しんでいただくことで愛好者をふやしていくことが、専門店が進出しやすい環境につながるものだと思います。

そのため、厚木市では、市民の皆様がみんな楽しめるスポーツ活動に参加できるような場づくりや、音楽、絵画など文化芸術活動に親しみ、心豊かな暮らしができるような取り組みを積極的に展開していきます。そして、皆さんと一緒にスポーツや音楽活動などを通じて元気で明るく楽しいまちを目指していきたいと考えています。

次に、厚木中学校・幸田波月議員から、厚木市内に多くの年齢の人が利用できるような大きなモールなどをつくることはできませんかとのご質問でございますが、厚木市では、

子どもからお年寄りまで多くの世代の皆様が交流できる場としてアミューあつぎをことし4月26日にオープンし、皆様に音楽などのサークル活動や映画鑑賞などに利用していただくとともに、買い物を楽しんでいただいています。

また、東名厚木インターチェンジの近くでは、企業誘致を積極的に進めたことにより、皆さんもよくご存じの衣類の店や家電販売店などがオープンいたしました。睦合中学校の近くでは大型ホームセンターや大型スポーツ専門店がオープンし、多くの市民の皆様にご利用いただき、まちのにぎわいを創出しています。こうした商業店舗の出店は、働く場の確保や人口の増加につながるなど、今後の厚木市の発展に大きく寄与するものです。

今回ご提案いただきました大きなショッピングモールにつきましても、出店しやすくなるような支援制度の充実や建設用地の創出に積極的に努めてまいりたいと思っております。

私は、厚木市のリーダーとして、これからも厚木市を元気ににぎわいのあるまちにするために、本日お集まりの厚木の未来を担う幸田波月議員を初めあつぎ子ども議員の皆さんと一緒に、まちづくりについて全力を尽くしていきたいと思っております。

次に、厚木小学校・瀬戸大雅議員から、厚木に大きなスポーツの専門店はできないのですかとのご質問でございますが、スポーツ活動は、小・中学生の健全育成を初め市民の皆様の健康増進などに大変効果があると考えています。厚木市といたしましても、厚木市スポーツ推進計画を定め、より多くの市民の皆さんがスポーツ活動に参加できるよう取り組んでいるところです。

現在、市内には数店のスポーツ店と、市内下荻野には大型のスポーツ専門店があり、多くの来客があると聞き及んでおります。こうした中で、さらにスポーツ専門店をふやすための環境づくりとして、商店会や新たに新店舗に対する補助金等の支援体制の充実はもとより、子どもから高齢者まで、さまざま

まな年代の市民の皆様が多様なスポーツを楽しんでもらうことで、スポーツ人口が増加し、需要もふえていくことが、専門店の進出につながってくるものと思います。

2020年にはオリンピック・パラリンピックが東京で開催されることはご存じのことと思います。瀬戸大雅議員を初めとして厚木市の小・中学生の皆様には、これからも大きな夢と希望を持ってスポーツ活動に励んでいただき、ぜひとも厚木からオリンピック選手が登場することを楽しみにしています。

以上でございます。教育関係については教育長からご答弁申し上げます。

○石井芳隆議長 教育長。

○平井 広教育長 (登壇) 厚木小学校・藤川瀬名議員から、厚木には、なぜJリーグチームがないのですか、ぜひつくってくださいとのご質問でございますが、今、厚木市には、プロのサッカーチームはありませんが、湘南ベルマーレのホームタウンになっており、応援をしています。現在チームはJ2の首位を独走中で、このままいけば来年はJ1に昇格できるものと思います。

厚木市にJリーグチームができれば、人々に夢と楽しみを与え、市民の皆様にとっても素晴らしいことだと思います。また、Jリーガーは全国のサッカーファンの憧れであり、目標でもあります。日本のトップクラスであるJリーグチームをつくるためには、チームを応援してくれる多くの市民の皆様、そして会社に支えていただくことが必要であります。チームとしても幾つものステップを乗り越えて初めてJリーグチームとして認められます。大変難しいことではありますが、これらの環境が整うのであれば、夢がかなうものと思います。

藤川瀬名議員も、スポーツを通じて、これからも体力づくりや仲間づくりに励んで、自分の夢や希望に向かって進んでください。

○石井芳隆議長 以上で第6グループの質問を終わります。

ただいまの第4グループから第6グループの質問に対する答弁について、子ども議員か

ら再質問はございますか。——別になければ以上で終わります。

ここで10分間休憩いたします。

午後3時10分 休憩

午後3時20分 開議

○石井芳隆議長 再開いたします。

第7グループの質問に移ります。

荻野中学校・ティンカークリスティーンシャロン議員。

厚木第二小学校・福山友莉香議員。

厚木第二小学校・吉岡聖伶菜議員。

厚木小学校・西山理子議員。

○16番 ティンカークリスティーンシャロン議員 (登壇) 荻野中学校のティンカークリスです。よろしくお願ひします。

私が疑問に思っていることについて質問させていただきます。なぜ厚木市の中学生には、登下校や部活動の遠征で自転車の使用が許可されていないのでしょうか。

1つ目は、私個人として、荻野運動公園や南毛利スポーツセンターに遠征で行くとき、バスよりも自転車のほうが便利だと思いました。2つ目は、同級生は片道4キロを徒歩で通学してきています。ことしは受験生のため、登下校の時間を短縮するために自転車を使いたいと言っています。3つ目は、交通ルールがあやふやな人が多いので、義務教育が終了するまでに正しい交通ルールを身につけるべきだと思います。加えて母も、中学生にもヘルメットの着用を徹底するべきだと申ししていました。自転車が通学や遠征にも使用できるなら、交通ルールも身につけやすいと確信しています。以上3点を超える反対の理由があるのでしょうか。

質問を繰り返します。なぜ厚木市の中学生には登下校や部活動の遠征で自転車の使用が許可されていないのでしょうか。教えてください。

○17番 福山友莉香議員 (登壇) 厚木第二小学校の福山友莉香です。よろしくお願ひします。

私は、全国学力テストで秋田県が1位なの

はどうしてなのか疑問に思っていました。最近、新聞の記事で、秋田県が学力向上のためにいろいろな取り組みをしていることがわかりました。

質問します。神奈川県の実力の向上や学習の意欲を高める環境づくりに当たって厚木市が行っていることは何ですか。教えてください。

○25番 吉岡聖伶菜議員（登壇）厚木第二小学校の吉岡聖伶菜です。よろしくお願いします。

ニュースで、ある市の小学生同士が交流し、他校と触れ合っていました。このような交流を厚木市でやるといいと思いました。他校の児童と仲よくなったり、いろいろな経験、体験ができると思います。今後、厚木市でそういうイベントをつくっていくことはできますか。

質問します。市内小学生交流の場設置について教えてください。

○26番 西山理子議員（登壇）厚木小学校の西山理子です。よろしくお願いします。

先日、厚木市で、ご飯を食べさせてもらえず亡くなった子がいます。私たちの元気な姿を、学校の行事などで私たちの頑張りを、市長さんが間をとって見に来てはくださらないかなと思いました。必ず学校のみならず頑張り、市長さんも私たちも笑顔になると思います。

質問します。カーニバルや授業参観などの児童たちの頑張りを、間をとって見に来ることはできませんか。教えてください。

○石井芳隆議長 教育長。

○平井 広教育長（登壇）荻野中学校・ティンカークリスティーンシャロン議員から、なぜ中学生は部活に行くとき、自転車に乗ってはだめなのかとのご質問でございますが、昨年度、学校から教育委員会に連絡のあった中学生の交通事故の件数は18件で、そのうち15件が自転車によるものです。特に土曜日や日曜日に多く発生しています。このように危険が多いため、安全性を優先し、自転車通学は許可していません。また、部活動でも、荷

物が多いことや、帰るときは疲れていることもあり、交通事故などに遭う危険性がより高まることから、自転車に乗ることを禁止しています。公共のマナーを守ることに気を配りながら、みんなでそろって会場に向かうことも大切な練習の1つです。部活動のときでも学校の決まりをしっかりと守って活躍してください。

なお、ティンカークリスティーンシャロン議員の言われるように、日ごろから正しい交通ルールを身につけていくことはとても重要です。学校では、授業や交通安全教室などを通して正しい交通ルールを学んでいます。これからも皆さんと力を合わせて、交通事故のない安心安全なまちをつくっていきましょう。

次に、厚木第二小学校・福山友莉香議員から、学力の向上や勉強しやすい環境のために市が行っていることは何ですかとのご質問でございますが、教育委員会では、皆さんが毎日の勉強の中で、おもしろい、もっと学びたいと実感できるように、さまざまな取り組みを進めています。その1つとして、先生以外に、授業中に皆さんへ学習のアドバイスをする人や、学校の図書室でいろいろな本を紹介する人など多くの方々に加わっていただき、皆さんの学習を支援しています。また、パソコンや実物投影機、プロジェクタなどを学校に置き、これらを使って楽しくわかりやすい授業が行われるような環境づくりを進めています。

さらに、皆さんが快適な環境の中で勉強し、学校生活を送ることができるように、全ての小・中学校で教室にエアコンを取りつけたり、トイレを清潔で使いやすくしたりするなど、いろいろな工夫をしています。これからも福山友莉香議員を初め皆さんが笑顔で登校し、学校で友達と触れ合いながらさまざまに感じ、考え、学ぶことができる教育環境をつくっていきます。

次に、厚木第二小学校・吉岡聖伶菜議員から、市内小学生交流の場設置についてのご質問でございますが、厚木市内の小学生が参加

し、交流できるイベントとしては、ちびっこマラソンや駅伝競走大会、各地区の公民館で開催される夏休み体験教室などがあります。厚木市内のいろいろな学校から多くの小学生が参加し、スポーツやものづくり体験などを通して交流しているところですが、皆さんにもっと知ってもらえるよう、いろいろな方法でお知らせしていきたいと思います。

また、和田傳文学賞やこどもアート展、厚木こども科学賞など、たくさんの小・中学生の皆さんが参加できる文化的なイベントもあります。吉岡聖侖菜議員が言われました小学生同士が交流し触れ合うことはとても大切なことだと思いますので、これからももっと多くの皆さんが参加しやすく交流しやすいものになるよう工夫していきたいと思います。

○石井芳隆議長 市長。

○小林常良市長（登壇）厚木小学校・西山理子議員から、カーニバルや授業参観などの私たちの頑張りを、間をとって見に来てはくれないでしょうかとのご質問でございますが、今回、大切な幼い命が失われるという事件が発生しました。大変心を痛めているところでありますし、多くの皆様にご心配をおかけしました。

市長としての私の役目は、皆さんが楽しく元気に学校生活を送ることができるよう、よりよい環境をつくることでもあります。そのために、皆さんの学校生活の様子を見ることも、私が大切にしていることの1つであります。これまでも、小・中学校の行事や学校以外での活動などさまざまな場面で、皆さんの頑張っている姿を見させていただいています。

また、文化やスポーツの大会などで優勝したり代表に選ばれたりしたときには、その報告のため、市長室に私を訪ねてくださる方も多く、活躍されたお話を聞くたびにとても感激し、私のほうが力をいただいています。これからも、西山理子議員が言われるように、できる限り、皆さんが元気で頑張っている姿を見たり、直接お話を聞いたりしたいと思っております。お邪魔させていただきま

す。ぜひ連絡をいただければと。西山議員、よろしく申し上げます。

皆さんのことは、私だけでなく、PTAの皆様や地域の方々など多くの大人が見守っていますので、勉強やクラブ活動などに一生懸命取り組んでいただき、楽しい学校生活をお過ごしいただきたいと思います。

○石井芳隆議長 以上で第7グループの質問を終わります。

次に、第8グループの質問に移ります。

厚木中学校・川島来実議員。

小鮎中学校・丸帆夏議員。

厚木第二小学校・内田榛平議員。

○27番 川島来実議員（登壇）厚木中学校の川島来実です。よろしく申し上げます。

私がきょう質問したいことは、学校給食についてです。中学校の給食をセンター式から小学校のような自校式の給食にすることは可能ですか。

理由として、センター式の給食と自校式の給食を比べると、自校式の給食のほうが、学校内で行うため、安心感がより強まると思います。また、給食を自校式に変えることによって、その学校独自の特色や味も生まれると思います。そして、自校式にすることで、それぞれの学校行事の日程にも合わせやすくなると思います。私たちにとっての利点だけではなく、給食センターからの大きなトラックが学校の周りを出入りすることが無くなり、地域の方々への迷惑も減ると思います。

このような理由で、センター式の給食から自校式の給食にすることは可能なのかを質問します。

○28番 丸帆夏議員（登壇）小鮎中学校の丸帆夏です。よろしく申し上げます。

私は、学校給食についての質問をします。

私はこの春から中学校の給食を食べるようになりましたが、正直に言って、小学校のときと比べておいしくないと思います。そのせいか残食が小学校のころよりも多い気がします。中学校の給食がおいしくない理由は、給食センターの給食だからだと思います。私の通っていた小学校は自校式給食でした。ほか

の自校式給食の小学校だった人たちも、小学校のほうがおいしかったと言っています。さらに、給食センターは自校式と比べて味のチェックが十分にできていないという話を聞いたこともあります。私はおいしい給食が食べたいです。そして給食がおいしくなれば残食が少なくなると思います。

中学校も自校式給食にする予定はありますか。教えてください。

○29番 内田榛平議員（登壇）厚木第二小学校の内田榛平です。よろしくお願ひします。

僕の学校では、エアコンが図書室とパソコン教室と職員室に設置されています。教室には扇風機がついていますが、最近の暑さでは扇風機を使用しても部屋の温度が全く下がりません。気象庁発表の日本の平均気温を調べてみたところ、2013年の気温は、1898年の統計開始以降8番目に高い値となりました。1990年以降、高温となる年が続出しています。僕たちに続く未来の後輩たちのためにも、エアコンを教室に絶対つけたほうがいいと思います。

質問します。今後の厚木市の小学校へのエアコン設置について教えてください。

○石井芳隆議長 教育長。

○平井 広教育長（登壇）厚木中学校・川島来実議員から、中学校の給食をセンター式ではなく、小学校のような自校式の給食にしてもらいたいですとのご質問でございますが、厚木市では、給食調理場の運営方法である自校方式とセンター方式について、学校給食の将来的なあり方を保護者の皆様にも一緒になって考えていただき、小学校は自校方式で、中学校は給食センターでの実施がいいという報告をいただいています。現在、小学校23校中17校まで自校方式になっています。

川島来実議員のご意見のとおり、自校方式は、調理する人の顔が見える安心感や学校独自の献立ができる利点があります。一方、給食センターは、自校方式が修理などにより給食がつかれないときに、かわりに給食をつくることができます。また、センター方式も学

校行事に合わせ給食を実施しています。

車両の出入りにつきましては、自校方式もセンター方式も同じですので、搬出入の事業者には安全運転に心がけるよう指導しています。

どちらの方式もそれぞれ利点がありますので、これからも自校方式とセンター方式の2つの方式を生かして、皆さんにおいしいと思っただけの給食をつくらしていきたいと考えています。

次に、小鮎中学校・丸帆夏議員から、厚木市内全ての小中学校で自校式給食にする予定はありますかとのご質問でございますが、厚木市では、小学校の自校方式の給食を平成13年度から実施してきました。中学校はお弁当を持参していただいていたのですが、市民の皆様の期待に応え、平成19年度から中学校給食を始めました。中学校は残食が多いというご意見ですが、神奈川県調査において、小学校と中学校を比較すると、神奈川県全体でも中学生になると残す割合が高くなるという結果が出ています。しかし、原因ははっきりとわかっていない状況です。

また、自校方式のほうがおいしいと言われることもありますが、給食センターでも、栄養士が成長期の皆さんのことを考えて献立を工夫し、調理員が一生懸命調理しています。さらに、皆さんにお届けする前に味の確認をしっかりと行うなど、おいしい給食の提供に心がけています。これからも自校方式とセンター方式の2つの方式を活用し、丸帆夏議員を初めとして皆さんに楽しみにしていただけるような給食を提供していきたいと考えています。

次に、厚木第二小学校・内田榛平議員から、教室のエアコンについて、今後、厚木市の小・中学校にエアコンは設置されますかとのご質問でございますが、児童・生徒の皆さんの学校生活が楽しく快適に送れるような環境を整備することがとても大切だと考えています。市立の小・中学校へのエアコン設置につきましては、昨年、全ての中学校の教室に設置しました。引き続き、ことしからの3年

間で、全ての小学校の教室に設置をする予定です。これからも皆さんが喜んで登校したくなるような快適な学習環境を目指して取り組んでいきます。

○石井芳隆議長 以上で第8グループの質問を終わります。

ただいまの第7グループ、第8グループの質問に対する答弁について、子ども議員から再質問はございますか。厚木第二小学校・吉岡聖伶菜議員。

○25番 吉岡聖伶菜議員 私の言った小学生交流の場設置についてのことで再質問します。

今現在、厚木市では、ちびっこマラソンなど他校と交流できるものがあるのを知りました。では、これから他校と交流できる場をふやしていくことはできますか。教えてください。

○山田茂穂社会教育部長 それでは、スポーツの関係で私から答弁をさせていただきます。

現在、ちびっこマラソンや駅伝競走大会で他校の生徒さんと交流できる場を設けておりますけれども、ことしから新たにスポーツアカデミーというものを実施することにいたしました。これはスポーツの底辺を広げること、また、アスリート、トップ選手をつくること、こういった選手を育てる指導者の方々を育成する事業で、その中で特に優秀なトップアスリートを育成する事業の中では、小学生、中学生を中心とした事業を計画しています。その中で、市内の小学生、中学生を対象としたさまざまなスポーツの教室とかイベントを計画しております。

特に10月4日には、このスポーツアカデミーの記念フェアを計画しております。こちらはバルセロナオリンピックで陸上400メートルのファイナリスト、決勝に残られた選手の方をお呼びしまして、講演と、その場で簡単なトレーニングの方法を計画しております。厚木市文化会館で700の方を対象に行いますので、ぜひ参加してください。こういったさまざまなスポーツを通じて、他校のお友達

と交流できる場をこれからも計画していきたいと思えます。

○石井芳隆議長 ティンカークリスティーンシャロン議員。

○16番 ティンカークリスティーンシャロン議員 先ほど部活動についての件ではわかったのですが、やっぱり毎日4キロを徒歩で登下校する生徒もいるので、それも考え、その子も少しでも上の高校を目指したいと言っていたので、多少問題にはなると思うんですが、受験生には自転車の使用を許可していただく可能性は少しでもあるのでしょうか。

○宮崎昌彦学校教育部長 登下校と部活動の自転車通学ということですが、特に先ほども南毛利中学校の川原知真議員からも質問がありましたが、厚木市内の中学生、あるいは小学生の交通事故の中で自転車による事故が非常に多い、そういう件数が高いということが説明されましたが、ちょうど通学の時間、登校、下校の時間は、通勤等の一般の車も非常に多くて、事故に遭う可能性が高いと思えます。皆様の命を守るのが第一ですので、登下校につきましても今までどおり、自転車通学ではなくて徒歩、または徒歩でない場合はバスの通学等も状況によっては認めておりますので、そういう公共の交通機関を利用させていただきたいということを考えております。

○石井芳隆議長 以上で本日の日程は終了いたしました。議員の皆さん、本当にお疲れさまでした。すばらしい質問だったと思えます。

これもちまして、厚木市制60周年カウントダウン事業第1回あつぎ子ども議会を閉会いたします。

○山口美千代事務局長 皆様、本日は大変お疲れさまでした。

ここで、厚木中学校・三好悠太議員、厚木第二小学校・尾崎舞菜議員より、子ども議員を代表して感謝の言葉をいただきます。

まず始めに、三好悠太議員にお願いいたし

ます。

〇21番 三好悠太議員 厚木中学校3年の三好悠太です。29人の子ども議員を代表してお礼の言葉を申し上げます。

きょう、僕たちは、厚木市制60周年の記念の年に、この厚木市議会本会議場に集まり、将来のまちづくりや環境、福祉などいろいろな出来事について質問しました。それに対して、市長さんや議長さん、また、各部長さんからわかりやすい答弁をしていただき、とてもよい勉強になりました。

僕たちが住んでいる厚木市は、豊かな自然、産業、経済など活気あふれるまちです。僕は、このまちの自然や歴史、文化を受け継ぎ、このまちの将来のため、たくさんの努力をしていかなければならないと実感しました。きょうの経験を今後の学校生活に生かし、そして厚木市民の1人として、この自然や郷土を愛し、みずから考え、みずから行動する努力をしていきたいと思えます。

以上、29人を代表してお礼の言葉とさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。（拍手）

〇山口美千代事務局長 ありがとうございました。

続きまして尾崎舞菜議員にお願いいたします。

〇5番 尾崎舞菜議員 厚木第二小学校6年2組の尾崎舞菜です。29人の子ども議員の1人としてお礼の言葉を申し上げます。

きょう、私たちは、厚木市の子どもたちを代表して、市長さんたちにたくさんの質問をさせてもらいました。どの質問にも丁寧に答えてくださり、とても勉強になりました。安全のことや環境のこと、厚木市の将来像、人々の交流、子育て支援など、たくさんの課題に対して、小林市長さん、石井議長さんを初め、各部長さんや、市民のために働く人たちの苦勞や努力が初めてわかりました。きょうここに集まりわかったこと、感じたこと、考えたことを、これからの学校生活や、家庭、地域での生活にも生かしたいと思っています。

市民の1人として、厚木市がもっと活気にあふれ、みんなが笑顔になるような環境を、市長さんや地域の人たち、友達みんななどこれからはずっと守っていきたいです。みんなで行動し、みんなが努力する、相手を思いやる気持ちを大切にして、これからの厚木市をつくっていきたいと思えます。

以上、子ども議員29人を代表して、お礼の言葉とさせていただきます。きょうは本当にありがとうございました。（拍手）

〇21番 三好悠太議員 一同起立。礼。

〇山口美千代事務局長 ありがとうございました。

最後に、小林常良厚木市長から子ども議員の皆様メッセージをいただきたいと思えます。よろしくお願ひします。

〇小林常良市長（登壇）ありがとうございました。そしてお疲れさまでございました。

29人の議員の皆さんを代表して、三好悠太議員、尾崎舞菜議員、お礼の気持ちを伝えていただきまして、ありがとうございました。

この厚木市制60周年カウントダウン事業ですけれども、きょうのこの場ができたのは、後ろのほうにお座りの方もいらっしゃいますけれども、厚木市議会の議員の皆様が、子どもたちの皆さんのために、この席に座って、まさに生の声をお互い聞きながら、議会というのはこういうものですよということを経験していただくということで準備していただいたところでもあります。その中心的な役割をしていただきましたのは、今、厚木市議会はいろいろな議会改革を進められておりますが、議会の在り方検討会というのがありまして、議会をもっとよくするためにどうしようということ、いろいろ研究されている方です。その代表が、後ろにお座りですけれども、石井恒雄会長を中心に皆さんがご努力いただけてきょうできたことも、頭に入れておいていただければと思えます。

保護者の皆さん、本当にありがとうございます。長時間にわたりまして子どもたちの思いを、また、私どものお話を聞いていただきましたことを改めてお礼を申し上げたいと思

います。こういう関係がしっかりでき上がりますと、一つ一つ物事が前進していくのだと思っておりますので、引き続きまして、ご指導、ご協力のほどをお願い申し上げたいと思います。

そして、きょうは学校関係者、学校の先生方、校長先生を初め学校の皆さんにご協力いただきましたことに改めてお礼を申し上げさせていただきますところであります。

きょうは、駅前にお花があるといいね、バスセンターの電気がもっと明るいといいね、おいしい給食はどうしたらいいかね、そのほかたくさんお話をいただきました。ありがとうございます。皆様の気持ちはしっかり受けとめさせていただき、すぐできるものはすぐ実行できたらいいなと思っておりますし、簡単にできないものもあるのも事実であります。しかし、大事なことは、皆さんがこうしたいという思いを私どもが受けとめて、より実行できるような形で進めていく、こういう姿勢が大事だと思います。

冒頭、信頼を大事にしましょうというお話をさせていただきました。こういうことを通して、小学生、中学生の皆さんとさらに気持ちを通じ合う、そういう厚木の社会でありたい、そんな社会をつくり上げたい、こんな思いを持って、皆さんへの感謝の気持ちとさせていただきます。

本日はありがとうございました。

○山口美千代事務局長 ありがとうございます。

以上をもちまして、終了いたします。

午後 3 時 54 分 閉会

上記会議のてんまつを記載し、その相違ないことを証し、ここに署名する。

議 長 石 井 芳 隆
子ども議員 菅 み の り
同 岡 本 紗 弥
同 小 坂 麻 衣
同 ティンカークリスティーン
シャロン